

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel: 075-621-3849 Fax: 075-621-1579

E-mail: airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替: 01020-5-39321

編集発行所: 社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者: 平田 義

110号

向島っておもしろいなあ!

向島ニュータウンまちづくりビジョンが策定され4年目を迎えました。

「誰もが生き活きと暮らせる向島ニュータウン～暮らし心地を誇れる『多文化・多世代共生』のまち～」をスローガンにユニークな活動が次々と展開されてきています。今号では、その活動の中から4つの団体を紹介させていただきます。それぞれの団体が向島を多文化・多世代共生の街にしていくための熱い思いを語ってくださっています。是非、ご一読くださり、「向島ってほんまにおもしろい街やなあ」って感じてもらえればと願っております。(平田義)

■向島まちづくり情報発信グループ 代表 神門 正和さん

① どういう活動に取り組んでおられますか？

「向島ニュータウン・地域団体活動ステップアップ事業」の助成を得て、向島まちづくり情報発信グループのメンバー十数名で取材・編集をし、デザインは京都市の地域計画建築研究所「アルパック」が担当して、2019年4月「伏見・向島エリアのひと・お店・文化に触れるタウンマガジン『むかいじまだいすき』創刊号を発行しました。その後2020年SPRING号・向島まつり2020特集号を発行しています。伏見区役所・向島図書館・伏見中央図書館・向島地域の病院や事業者のみなさんにも置いていただき、幸いにも毎回好評を持って迎えられホッとしています。

「向島まちづくり通信」の発行のお手伝いもしています。従来は向島でのイベントの案内が中心でしたが、コロナの影響で様々なイベントが中止になってしまったため、代わりに向島で頑張るお店の紹介や、向島の歴史・史跡「駒札」めぐりのなどの記事を掲載しました。紹介するお店には実際に何度も足を運び取材をしました。「向島まちづくり通信」を読まれた方が、紹介したお店や「駒札」の設置場所を訪れていただいているようです。

② 団体(活動)の目的は？

向島で暮らす方や、向島以外の地域の方にも、歴史、自然、食文化などを通して、『向島』の多彩な魅力を発信することです。

③ 向島のまちづくりで取り組んでいること、これからやってみたいことは？

向島ニュータウン建設当初から向島に住んでいます。以前から地域のことに関心はありましたが、なかなか参加できずにいました。4年前に定年を迎え、向島まちづくりヴィジョンのワーキンググループの会議に参加したことがきっかけとなり本格的に活動を始めました。

情報発信をするためのフェイスブックの投稿の仕方なども、全くわからなかったので、一から勉強しました。向島の歴史についてもいろいろ調べました。初めは思うようにいかないことも多々ありましたが、今ではあらゆる活動に参加し定年前よりも忙しくしています。

また、くらしの相談なども行っており、市営住宅の家賃減免の手続きや、生活保護の手続きのお手伝いをすることもあります。

④ 今後、向島がこんな街になってほしい…

現在3ヶ月に1度発行している「向島まちづくり通信」は、向島ニュータウンには全戸配布できていますが、向島学区、向島南学区には回覧のみになっています。予算等様々な問題はありますが、向島全域に配布し、多くの方に読んでいただきたいと思っています。

2020年6月には京都市公式の向島地域PR動画「むかいじまだいすき」が公開され、10月には向島まつりの記事が京都新聞に掲載され、少しずつではありますが向島を注目していただくことが増えてきました。

現在製作費の半分は京都市から助成されていますが、2021年3月で期間終了となります。その後どのようにしていくのかが大きな課題ですが、今後もあらたな魅力を発信し、より多くの方に向島を知っていただき、地域一丸となって今よりもっと住みやすい街にしていきたいと思っています。(担当: 藤田有紀)

*海外研修：あしなが育英会は専門学校、短大、4年制大学、大学院で学ぶ奨学生を対象に様々な海外留学研修制度を設けています。1週間から1年間まで10以上の国や地域に30名以上の学生を派遣しています。
*調査*出版*政策提言：遺児の実態調査や育英会の活動をまとめた本の出版、政府への政策提言など様々な形で社会へ訴えかけを行っています。

②団体(活動)の目的は？

広く社会からのフィランソロピー (やさしい人間愛) 精神に基づく支援によって、遺児へ教育支援と心のケアを提供し、やさしさの連鎖を世界中に広げながら人間の尊厳が脅かされることのない社会を実現することです。

③向島のまちづくりで取り組んでいること、これからやってみたいことは？

「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」を更に推進していくため、元京都市立向島二の丸小学校をリノベーションして、アフリカや日本の遺児奨学生向けの教育施設兼学生寮、京都志塾として活用します。京都の伝統文化を積極的に取り入れながら、新たな文化交流を創出する場とすることを目指しています。また、学生と市民の交流とともに、向島地域の歴史・文化の継承及び地域コミュニティの活性化にもつながるような活動を地域の皆さんと共創していきたいと思っています。

④今後、向島がこんな街になってほしい...

向島がどのような街なのか実際のところまだよくわからないこともあり、「このような街になったらいいなあ」とはまだ言明できません...。ですが向島の住民や事業者の皆さんとお話しさせていただきながら、向島の地域が持つ懐の深さやおおらかなさを感じることがよくあります。そして、皆さん明るく、垣根を作らないで接してくださいませ。こうした地域の特性は、私たちにとってもありがたいことですが、同時に、インクルーシブな社会の実現にきっとプラスに作用するのではないかと思います。(担当：福野由記)



**■京都市ユースサービス協会
大下宗幸さん**

①どういった活動に取り組んでおられますか？

向島ユースセンターは住民の方伏見区社会福祉協議会、京都文教大学と有志の学生スタッフと、私が所属する(公財)京都市ユースサービス協会からなる向島ユースセンター実行委員会が運営しており、その活動は当協会が市内7ヶ所で運営している青少年活動センター (以下センター) に由来しています。センターは目的を問われずいることのでき

る場所であり、誰もがいつでも自由に過ごせるロビーと、ダンスや音楽など自主活動ができる貸館施設からなる施設です。

その他、若者のニーズに応じた様々なプログラムを展開しています。中学生年代から30歳までの若者は優先的に利用する事ができる、若者のための居場所であり、全国的にも珍しい施設です。もちろん、一般の方も使えます。

そんなセンターですが、市内7箇所で11行政区すべての若者を網羅することはもちろんできません。そこで、近年力を入れているのが、センターのない地域においてその機能を展開するアウトリーチであり、2017年に向島ユースセンターはスタートしました。

向島では、当初月1回の頻度で、京都文教マイタウン向島(愛称：MJ)にてユースセンターを運営していました。当時、向島まちづくりビジョンがはじまった頃で、運よく地域の様々な方との出逢いもあり、集まった若者、地域の方いっしょになっておしゃべりしたり、時にはいっしょにたこ焼きを作ったりしていました。

現在はむかちゅうセンターの教室、体育館で毎週金曜日に運営しており、教室では若者が思い思いの時間を過ごしています。体育館ではバスケットボールが大人気です。他愛ない雑談から地域行事への参加や相談につながることもあります。若者を色眼鏡で見るのではなく、今そこにいる若者と向き合い、まずは若者と関係性を作ること一番大切になっています。

②団体(活動)の目的は？

若者といえば社会の中で問題として語られがちで、不登校、ひきこもり、非行など、問題への支援ばかりです。若者が問題なのではなく、社会の側が問題をはらんでいるのではないのでしょうか。私たちの活動は問題に焦点を当てるターゲティングの活動ではなく、すべての若者を対象とするユニバーサルな支援の在り方です。若者が本来持っている力を100%発揮できる、そのための関わりや機会、場作り、社会への発信を、私たちだけでなく若者と”ともに”一緒につくっていききたいと思っています。

③向島のまちづくりで取り組んでいること、これからやってみたいことは？

向島でも、多くの地域がそうであるように、元々あった若者と地域の関係がこんがらがってしまっていて誤解や偏見が生まれている、と活動を通じて感じています。ユースセンターが地域と若者のハブとなり、関係を編み直し、若者と地域・社会との関わりをどんどん広げていきたいと思っています。

④今後、向島がこんな街になってほしい...

若者と地域が一緒になって、誤解や偏見のない生きやすい町になればいいですね!(担当：永江孝志)

■ こんにちは浅田です！
インクルーシブ社会実現部発足！！

愛隣館研修センターインクルーシブ社会実現部
浅田将之（写真右側）

平田さんに声をかけていただき、9月から愛隣館で働かせていただいております新入職員の浅田と申します。小中高校の時代から馴染みのある伏見区で地域福祉に携わる機会をいただき大変感謝しております。

インクルーシブ社会実現部の創設から関わらせていただいております、様々な会議や活動を通して、地域住民の方々との出会い、地域について学び、デイの送迎や活動の中で利用者を知り、家を覚え、その方の歴史を学びながら、私自身の顔と名前も早く覚えていただけるよう取り組んでいます。また、ともに働く職員のみなさんには一から十まで教えていただきながら、日々、皆さんの関りに温かさを感じています。足手まといにならないように心がけます。

さて、インクルーシブ社会とは、目指すべき社会のあり方を示す国際的な指針であり、いろいろな考え方や能力をもった人がいるこの社会で、すべての人が孤立したり、排除されたりしないように、その存在を援護し、それが社会の一員として役割をもち、認めあい、支えあう社会のことでもあります。

造成40年を超えた向島ニュータウンでも、空き部屋が目立つようになっており、この課題に対して「向島まちづくりビジョン」とい

う住民、行政、事業者等地域の関係機関を交えた会議の場で、空き部屋の福祉活用を具体的な一つの解決策として提案され、複数の事業者に打診されましたが運営法人が見つからなかったこともあり、愛隣館で新たな事業、障がいのある人が暮らすグループホームの開設を準備することになりました。

インクルーシブ社会の実現を意識して、引き続き向島から地域福祉の実践に取り組んでまいります。出会った人にとって、愛隣館にとって、居てよかった！と思ってもらえる存在になれるように日々の学びから、成長していきたいと思ひます。

「天の下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。～中略～神のなされることは皆その時にかなって美しい。」

（伝道の書3章1節～中略～11節）

この聖書の言葉を大切に、自分にできることを増やしながら、皆さんのお役に立てるよう努力いたしますので、何卒ご指導よろしくお願ひいたします。



<新愛隣館建設のための募金のお願い>
～インクルーシブ社会の実現を！

2020年4月より、新愛隣館の建築工事が始まりました。建築費用は、自己資金と借入金のみで賄う予定です。つきましては、皆さまからのお支えをお願いしたいと思います。

これまで、多くのお支えをいただいておりますが、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、何卒よろしくお願ひいたします。

支出	金額	収入	金額
総工費	12億	自己資金	7.2億
		借入金	4.5億
合計	12億	合計	11.7億

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます

郵便振替：01020-5-39321

口座名義：社会福祉法人イエス団

愛隣館研修センター

*募金目標額：3千万円

グループホームの世話人、生活支援員募集中！

- 内容 ■ 障がいのある人が暮らすグループホームの生活をサポート（2021年4月開設）
- 資格 ■ 資格の有無は問いません
- 時間 ■ 6：00-22：00 4時間週シフト制（ベース）
時間・曜日相談に応じます
- 時給 ■ 909円～1000円（開設までは研修期間となります）
- 休日 ■ 週休2日（相談可）
- 待遇 ■ 交通費実費支給（上限20,000円）、
自転車・バイク通勤可

※送迎時の運転手も募集しております！
※障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」での移動支援、居宅支援ヘルパーも募集中！（要資格）
参照：ハローワーク求人票（愛隣デイサービスセンター）

★編集後記★
▼110号のご意見ご感想、楽しみにお待ちしております（さ）
▼沖繩の高垣喜三さんが12月1日に急逝された伊豆の地、建設現場の活動など、平野さん、お力添えをありがとうございました。私達も、お力添えをありがとうございました。静かに過ごしたいです。お祈りいたします（ひ）